

長野県植物研究者伝 6

小山海太郎 抄伝

丸山利雄

T. Maruyama: Biography of Mr. Kaitaro Koyama

長野県出身の植物研究者で、主として長野県内、特に東北信地方の植物調査で業績を残された方に、小山海太郎氏（1870～1953）がある。

その履歴の概要は、次の通りである。

1870（明治3年）4月3日、小県郡和村（現東部町）の小山熊之助氏の長男として生れる。

長じて和小学校への入学の年は明らかではないが初め生徒として、1886（明治19年）よりは授業生（指導の指導のもとに児童の指導にあたるその校限りの教職員）として加学校に学び、1889（明治22年）より1899（明治32年）年まで、祢津・加尋常小学校に教職員として勤務した。

1900（明治33年）年 30才、農商務省農事試験場（西ヶ原）に勤務。

1901（明治34年）年 31才、文部省の中学校・師範学校・高等女学校の博物科教員検定試験に合格し、同年から22年間、上田中学校野沢分校（後の野沢中学校、現野沢北高等学校）に勤務、1922（大正11、52才）年から1932（昭和7、62才）年まで長野商業学校（現長野商業高等学校）に勤務。また昭和16年より1年間小諸商業学校の講師も勤めた。

1902（明治35、32才）年6月、南佐久郡北牧村（現小海町）豊里牧場でわが国ではじめて自生のツキヌキソウを発見した。この植物は、草木図説（草部）に「日本に野生のものあらず支那より渡来せるものなり」と牧野富太郎氏によって注されていた。その後1907年倉島賢治郎氏は米子と傍陽で、1908年千野光茂氏は守屋山で、1918年横沢末木氏が長村（現真田町）大明神沢等で採集、1956年には丸山尚敏氏によってホザキツキヌキソウが山梨県で発見されたので、この二つの植物は大陸の植物の隔離分布と見る方が適切ようである。

1910（明治43）年 40才、岩村田（現佐久市）上の城の洞穴のヒカリゴケを日本ではじめて野沢中学校の生徒と発見し、また小諸市味噌塚が天狗の麦飯産地であることを発見した。これらは二つ共現在国指定の天然記念物となっている。

1921（大正10、51才）年より、長野県史跡名勝天然記念物調査委員を兼ね、天然記念物の調査研究に当たった。その間の植物に関する調査報告書の提出

されたものは、次の通りである。

1923（大正12）年 53才

南佐久郡南牧村のサカサカシワとシダレグリ

1924（大正13）年 54才

小県郡泉田村（現上田市）のモイワナズナ

小県郡祢津村（現東部町）姫子沢のカヤの木

小県郡長村・傍陽村（現真田町）のツキヌキソウ

北佐久郡岩村田町（現佐久市）のアカマツとクロマツの相生松

小県郡青木村の野生のサトイモ

1925（大正14）年 55才

下高井郡延徳村（現中野市）の飯盛松

下高井郡瑞穂村（現飯山市）のイチョウ

1926（大正15）年 56才

小県郡青木村の千本松

上水内郡小田切村（現長野市）の順礼桜

上田市のハゴロモカシワ

上水内郡神郷村（現豊野町）のツツジ山

1928（昭和3）年 58才

下高井郡往郷村（現木島平村）の野生ナシ

上水内郡日里村（現中条村）の大スギ

上水内郡七二会村（現長野市）のトチ

1929（昭和4）年 59才

下高井郡夜間瀬村（現山ノ内町）の千歳桜・源平シダレザクラ・熊野宮のナシ

南佐久郡川上村のヤマナシ

長野市蔵春閣の突貫落葉松

1930（昭和5）年 60才

長野市旭幼稚園のシロコヒガンザクラ

長野市善光寺のジュズアンズ

埴科郡坂城町のエノキ並木

小県郡塩尻村（現上田市）のフジキ

1932（昭和7）年 62才

小県郡祢津村（現東部町）のハゴロモガシワ

北佐久郡芦田村（現立科町）の大スギ

上水内郡戸隠村の開中桜（エドヒガン）

上田市上田神社の枝変わりカエデ

更級郡八幡村（現更埴市）のカツラ

北佐久郡芦田村（現立科町）の女夫松（連理のアカマツ）

1933（昭和8）年 63才

小県郡殿城村（現上田市）岩清水の御神木（アカマツ）

小県郡祢津村（現東部町）のシナノキの大木

上水内郡日里村（現中条村）の臥雲の三本杉

北佐久郡北御牧村のシダレニレ

上水内郡小田切村（現長野市）の余五將軍駒つなぎのイチイ

小県郡和村（現東部町）美都穂神社の社林

1934（昭和9）年 64才

更級郡篠ノ井町（現長野市）のお葉附イチョウ

上水内郡戸隠村猿丸の七本松（アカマツ）

上水内郡戸隠村中社の三本杉

上水内郡小田切村（現長野市）国見のイチイ

北佐久郡小諸町（現小諸市）六道原のケヤキ

上水内郡柵村（現戸隠村）巖窟観音世の大スギ

更級郡八幡村（現更埴市）の七福栗

善光寺平のジュズアズノ分布

長野市吉田の大イチョウ

1935（昭和10）年 65才

上田市霞原のウメ

更級郡信里村（現長野市）のウンリュウヒバとサワラとのキメラ

1936（昭和11）年 66才

小県郡和村（現東部町）海善寺の白花クサボケ

埴科郡松代町（現長野市）象山のカシワの古木

埴科郡屋代町（現更埴市）オウゴンヒバの大木

長野市御所のチャボヒバの大木

上田市鍛冶町の二度咲きのカキ

上水内郡茅井村（現長野市）アキニレ

1937（昭和12）年 67才

北佐久郡御代田村（現御代田町）のカラマツの老樹

更級郡青木島村（現長野市）網島のヌマスギ

埴科郡五加村（現戸倉町）の神代ケヤキ

1938（昭和13）年 68才

北佐久郡小諸町（現小諸市）懐古園の名木シダレザクラ・海蔵院のサクラ外三種

北佐久郡協和村（現望月町）のアズマヒガンと八重のフウロソウ

小県郡長村（現真田町）波沢のシダレグリ

更級郡真島村（現長野市）のクワの大木

上水内郡北小川村（現小川村）のお葉附イチョウ

1939（昭和14）年 69才

埴科郡戸倉村（現戸倉町）アズマヒガンの大木

南佐久郡岸野村（現佐久市）根岸のビャクシン

上水内郡柵村（現戸隠村）平出のイチイ

上水内郡栄村（現中条村）上十石のイチイ

小県郡別所村（現上田市）北向山のカツラ

南佐久郡平賀村（現佐久市）白山神社の神木（イチイ）

1940（昭和15）年 70才

小県郡長村（現真田町）菅平のアオナシとツキヌキノ

小県郡傍陽村（現真田町）菅田神社の神木（ケヤキ）

小県郡西内村（現丸子町）霊泉寺の大ケヤキ

小県郡長村（現真田町）石舟神社の神木ケヤキ

小県郡殿城村（現上田市）赤坂岩屋堂アカマツ

更級郡大岡村の夫婦楓（ケヤキ）とモミの大木

1943（昭和18）年 73才

小県郡泉田村（現上田市）のヤエフジ

北佐久郡三都和村（現佐久市）塩沢新田のアズマヒガン

南佐久郡野沢町（現佐久市）の女男木（ケヤキ）

1949年（昭和24）年 79才

北佐久郡春日村（現望月町）小野山桜（アズマヒガン）

その他、氏の発見または新産地発見には、

1903年、ハケ岳でイチョウバイカモ

1904年、川上村でハリセンボン

1922年、松原湖畔でシナノアキギリ、これには、*Salvia koyamae* Makino の学名がつけられた。

なお著書には、次のようなものがある。

郷土研究少年読本 昆虫採集物語 昭和9年刊

郷土研究少年読本 信濃鳥類物語 昭和9年刊

昆虫漫談 昭和9年刊 信濃の鳥類 昭和9年刊

昆虫物語 昭和11年刊 続昆虫物語 昭和11年刊

氏はまた絵を好み友人丸山晚霞、教え子神津港人らと長く交わり、文豪島崎藤村、実業界の金子行徳氏らとの文通もあり、学界では八木貞助・三好学・牧野富太郎・田中阿歌麿氏らとも交渉が深かったという。平素自宅に「小鳥の巣」の表札をかかげ、野鳥の標本300余種を作製して愛蔵していたという。小山家現在の世帯主は、小山峻氏（海太郎氏長男の養子）である。

参考文献

和村誌（昭和38年刊）和小学校百年誌（昭和54年刊）

上小郷土研究会機関紙（昭和29年刊）

長野県史跡名勝天然記念調査報告第1巻～第7巻（昭和49年刊）

長野県指定文化財調査報告第1集（昭和37年刊）